

S-II-0 急性肺傷害の実験的治療

座長のことば

京都府立医科大学 集中治療部

橋本 悟

本学会では過去3年にわたって急性肺傷害の病態および治療に関するシンポジウムを開催してきており一般参加者の関心も非常に高いと思われる。今回はこのテーマに関して2つのシンポジウム「肺損傷動物実験モデルの概念の整理」と「急性肺障害の実験的治療」を設けて討議していただく。この二つのテーマは不即不離の関係にあると言っても差し支えないので後者の座長として双方のシンポジウム演者、座長間での活発な議論をお願いした。現時点では大規模 RCT で認められた治療法は残念ながら低容量換気による人工呼吸法だけである。しかしながら今回実験的治療としてご呈示いただく各演者の発表はいずれも将来有望な治療戦略となりえると考えられその発展に期待したい。西村先生には Ventilator Induced Lung Injury (以下 VILI) に対する肺保護戦略の一手法としてのリクルートメントの可能性について、過膨張とずれ応力という二つの要素の関係を交えて解説していただく。リクルートメントについては臨床的には未だに良く理解されていない部分もあるので実際の手法にまでつっこんだ議論がなされると期待している。次の2題は気分大の鋭い研究者お二人の研究である。吉良先生は軽度低体

温療法と言う一見肺傷害に対しては無関係と思われる療法に着目され研究を進められているのでその有用性およびメカニズムについて解説していただく。また萩原先生は分子生物学的手法を用い HSP47 アンチセンス投与によって肺の線維化を防止する可能性について研究されている。アンチセンスの効果は比較的長期間継続するものであり後期 ARDS における線維化の防止に対して非常に有望な治療法となりえる可能性がある。4, 5 番目の演題は Ventilator Associated Pneumonia の起炎菌としても注目されている緑膿菌肺炎に対する治療法の検討である。志馬先生にはグラム陰性桿菌に特異的な III 型分泌システムの主要構成タンパクである PcrV に対する抗体療法についてご解説いただき、倉橋先生にはこの緑膿菌肺炎と VILI の関係についての研究と IL-10 または抗 TNF 抗体による免疫療法の効果についての研究をご解説いただく。最後に萩本先生には急性肺損傷における細胞死の機構とその制御について総説的にご解説いただく予定である。なかでもプレオマイシン肺線維症モデルや Fas 誘導性肺損傷モデルなどにおけるアポトーシスの関与についてのご自身の興味ある知見は注目に値するものである。